

「自己紹介シート」の活用によって、社内のコミュニケーションが円滑に

社会福祉法人コロロ学舎 瑞学園



事業概要 : 生活介護、施設入所支援
 従業員数 : 90名(令和4年8月現在)
 サポーター : 小林さん(上司)
 被支援者 : 40代(精神障害)
 勤続年数 : 6年(令和5年3月現在)
 業務内容 : 園内清掃及び備品補充、園庭整備

支援
内容

取組み ➡ 働きやすい職場環境の整備

効果 ➡ 勤怠の安定、モチベーションのアップ

「職場内障害者サポーター事業」への参加が 精神障害者の雇用に対する不安の光明に

瑞学園は、これまで知的障害者の雇用は経験してきましたが、精神障害者の採用は初めてであり、庶務課課長の小林さんは配慮点や指導方法などに不安を抱いていました。

Aさんは採用当初は特に問題なく業務にあたっていました。2、3年ほど前からスピードが落ち、作業と作業の移行にも時間がかかるようになりました。そんなとき、小林さんはサポーター事業を知り、即座に参加を決めました。

瑞学園は、福祉施設として利用者の支援に専門的な知識をもつ職員がさまざまな業務に携わっていますが、精神障害がある職員に対する理解が乏しい人もいました。障害者の就労態度やできないことにはばかり目がいく職員からは、不満を漏らす声が挙がるようになりました。小林さんは、職員の障害への理解を深めることが、Aさんにとって働きやすい職場づくりに繋がると考えました。

「自己紹介シート」の活用で生まれた 職員とのコミュニケーション

小林さんは、養成講座の社内理解促進の事例から、Aさんが自ら、障害特性を職員に説明することが理解促進や働きやすい職場づくりに効果的であると感じました。そこで、Aさんと話し合ったうえで、庶務課職員に向けて「自己紹介シート」を作成することにしました。

自己紹介シートの作成にあたって、①自分の体と心について ②関わる職員について ③お仕事について を

テーマにAさんにアンケートに協力してもらいました。さらに、より身近に感じてもらうため「僕ってこんな人」と題し1枚のシートにして、庶務課職員に展開しました。

<実際の自己紹介シート 抜粋>



これが予想通り職員の関心を惹きつけ、職員同士の意見交換も活発にされるようになりました。これまで就労態度やできないことばかりに目が行っていた職員にも変化が見られ、Aさんと少しずつコミュニケーションが取れるようになってきました。

寄り添った支援とは 「障害特性を知り、受け入れること」

こうして職場内のコミュニケーションが醸成される中で、Aさんより知的障害のある同僚からの視線が気になる、という訴えがありました。これに対応するため小林さんはAさんとその同僚の様子を観察してみました。

しかし特段に気になることはなく、相性の問題なのでは



ないかと思当をつけつつも、Aさんから話があった以上、本人に寄り添った解決策を検討する必要があると考えました。そして、園庭整備では窓と庭とに分けるなど、可能な限りお互いの顔を合わせないようにして、Aさんの心と体の状態に合わせた作業ができるように配置することにしました。

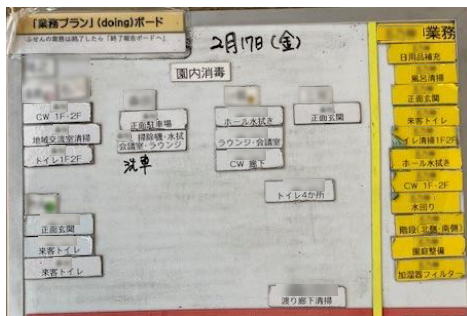


一定のリズムで働くために スケジュールの見える化を図る

小林さんは、Aさんや他の障害のある社員が働きやすいように「業務を可視化」することを考えました。そこで、ホワイトボードに1週間と当日のスケジュールを書き込み、他の職員にも共有するようになりました。

業務スケジュールを事前に共有することによって、Aさん

<実際の業務可視化ボード>



からも質問が出てくるようになり業務をスムーズに進められるようになりました。

Aさんは業務スケジュールの見える化により、手順を組み立てられ精神的に余裕を持てるようになりました。また職員は、障害のあるメンバーの作業内容がわかるため、タイミングよく声をかけられるようになりました。

Aさんの成長を期待して 新たな業務の切り出しを実施

職員がAさんの人柄をより理解できたことにより、雑談もできるようになり、職場の雰囲気や和やかになってきました。

小林さんは、Aさんが成長して活躍することを期待して、事務系の仕事も任せられるように指導していくことにしました。AさんはPCスキルもあるので、施設内の職員に呼びかけ、事務系の業務を増やしていこうと考えています。今はトライアルとしてPCを使った車両月報、職員の食事代の集計業務に取り組んでいます。

小林さんは、人事考課のタイミングをAさんのモチベーションアップの絶好の機会と捉え、面談で「目標設定」「具体的な行動」について話し合っています。Aさんに任せられる業務が増え、活躍の場が広がっていくことを楽しみにしています。



小林さん「考えることより行動することが大切です」

最初は精神障害者の雇用に不安を持っていたのですが、多分考えていても不安は解消されなかったと思います。

養成講座の受講、また参加者同士の意見交換などにより、気がついたら不安がとても軽くなっていました。知識を持つこと、情報を得ることの大切さを強く感じています。

また、養成講座受講後に「ジョブコーチ研修」も

受けたことにより、知識の幅が広がったと思っています。自分自身、障害特性などの理解が深まりましたので、今後は施設内の職員へ理解を促進していくのが私の役割だと考えています。今後は、地域の支援機関とも連携し、Aさんの悩みや課題を早期に拾い上げ解決していくつもりです。

これからも障害者一人ひとりに寄り添った、心の込もった支援ができるよう行動したいです。